

第 105 回番組審議会議事録

(株)中国コミュニケーションネットワーク

FM ちゅーピー 76.6MHz

開催年月日 令和4年2月10日(木) 午前11時

開催場所 中国経済クラブ(中国新聞社8階)

委員: 総数7人

出席委員(敬称略)

委員 中川 元慧(浄土真宗本願寺派善正寺住職)

委員 木谷 健(比治山学園専務理事)

委員 中山 正剛(広島大学スポーツセンター特任教授)

委員 中川 圭(乳がん患者友の会きらら理事長)

委員 吉田 朋子(和奏光夜実行委員会代表)

委員 向井 良(弁護士)

委員 木ノ元陽子(中国新聞社文化担当部長)

会社側出席:

社長兼放送局長

小見山 文男

制作担当

堀部 正拓

渡邊 康美

営業担当

久保田 正明

議題

一、開会挨拶

一、番組試聴「私たちの校歌」

一、ご意見・ご感想

一、訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告

◆番組試聴「私たちの校歌」(1月14日・21日放送分)

朝の情報番組「朝ラジ!」の毎週金曜日に広島市内を中心に学校の紹介をするとともに校歌を放送するコーナーを1月14日からスタートしました。14日は広島市佐伯区五日市町の石内小を取り上げました。21日は安佐北区の亀山中を取り上げました。

<番組に対する委員の意見・感想>

・番組内で「100年以上の歴史がある」と紹介していた小学校があった。少子化の現状を考えると、この番組は貴重な記録にもなると思う。子どもの成長にも良いと思う。企画力などいろんな力を身につけることができる。

・子どもころは、応援歌などについては憶えているのだが、校歌はもう思い出せない。大人になって思い出せないという人も多いと思う。また、統廃合などで母校がもう存在しないという人もいるだろう。番組に、先生やOBの大人が登場して思い出話などをしてくれたら面白いのではないかと思った。地域の宝になると思う。

・コミュニティFM局らしい番組だった。自分と関係のないよその校歌を聞いても、なぜか懐かしくて歌えそうな気がする。番組では五反田さんのはつらつとしたトークが加わるのもよかった。子どもたちのコメントも、やたらと先生についてほめるコメントが多かったが、言われている感じではなく、先生と楽しく過ごしているんだなと想像した。放送エリア外の郊外の学校でもサイマル放送で聞けるし、市内中心部には卒業生もいるだろう。

・番組がチャイムの音で始まるという工夫がよかった。先生やOBが出たほうがよいという意見もあったが、私は子どもらしさが良い番組だと思った。小学生は真面目に話し、中学生はフランクに話していた印象。もっと自由に子どもらしく話してほしい。子どもたちはユーチューブ世代なので、楽しい番組を作れるのではないか。リスナーも幅広く、頭の中に景色が浮かぶので懐かしく感じる人が多いと思う。

・コミュニティらしさがある番組。自分の母校が出てきたら聞いてみようと思う。ぜひ事前広告でどこの学校がでるのかを宣伝してほしい。五反田さんの明るいトークもよかった。ただ、小学生のしゃべりは聞きにくいところがあり、中学生もしゃべりのプロではない。インタビュアーが必要かもしれないと感じた。

・校歌というのは、まったくの部外者が聞いても子どもたちが歌うのを見るとジーンとくる。コロナ禍で、子どもたちの修学旅行や卒業式など大切な体験が大きく制限されている。大人たちがこれをどう埋めてあげるかが課題だが、この番組出演は子どもたちにとって貴重な経験になると思う。

・石内にお寺があったこともあり、石内小の話を聞くと景色が頭に浮かび、親近感がわいた。同じように感じる人もいるだろう。校歌の作詞作曲者についてもぜひ紹介してほしい。意外な人が話に出てくるかもしれないし、学校の歴史についてももっと紹介するとういと思う。

◆訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告

▽番組での訂正やリスナーからの番組に関する苦情についてはありませんでした。

▽1月8日（土） 土曜夕方の番組として「広響サタデーシンフォニー」を開始した。

▽1月14日（金） 「私たちの校歌」を朝ラジ！の中で開始した。

以上